

App Bridge Release Note

App Bridge Ver. 1.14.0 のバージョンアップ内容を以下に示します。

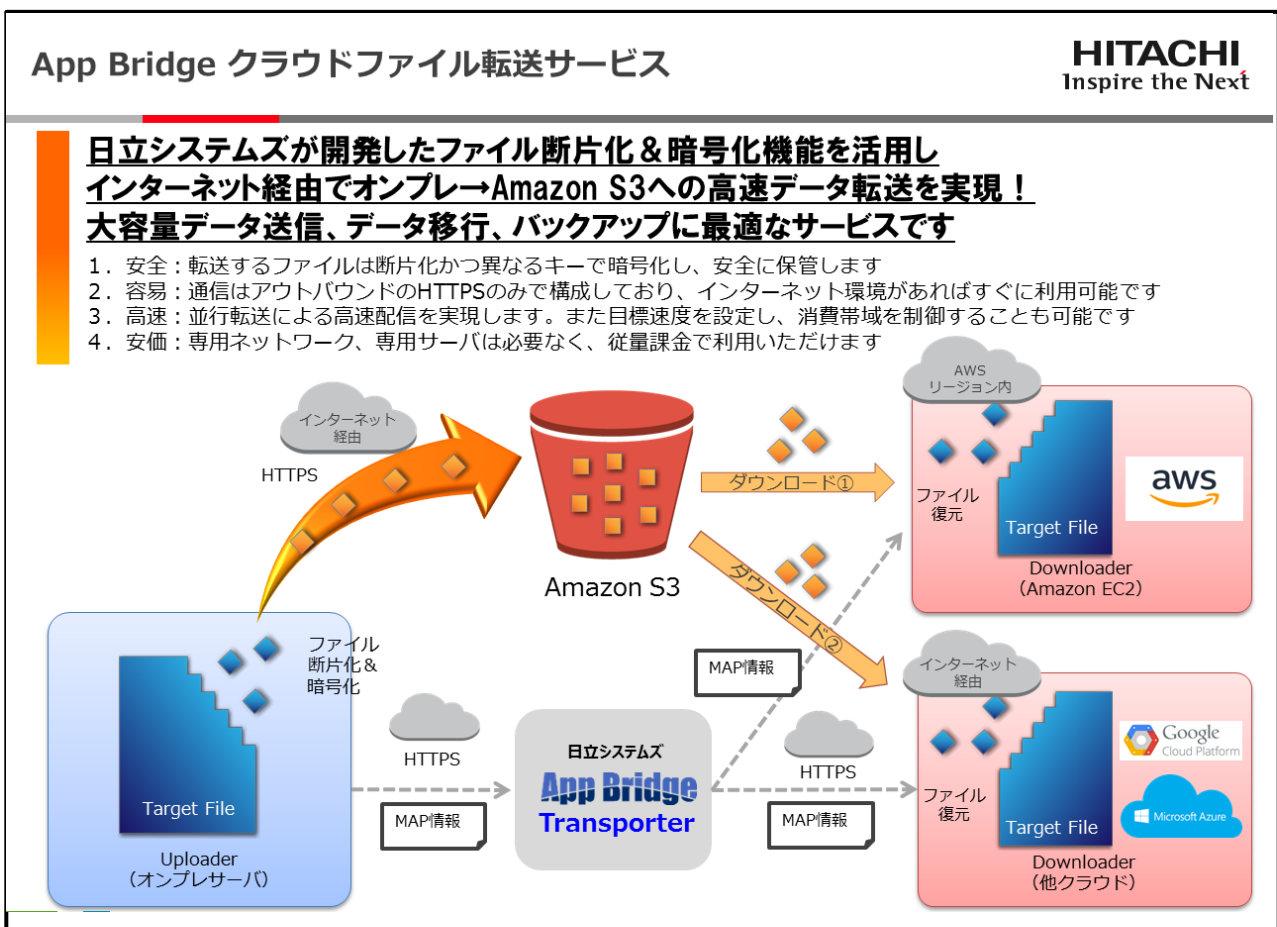
1. クラウドファイル転送サービス新設

大容量ファイルの転送を容易に実現するクラウドファイル転送サービスを開始します。本サービスは、クラウドストレージを経由する新しいファイル転送サービスであり、既存のネットワークを利用して、GB~TB クラスのデータを高速、且つ安全に転送できます。

本サービスは、クラウド、オンプレミス、データセンタ間のファイル転送に適用でき、業務システムにおける大容量ファイルの取り扱いを容易にするとともに、移行データ、セットアップデータの配信、バックアップデータの保存、ディザスタリカバリ環境構築などに幅広くご利用いただけます。

お客様は、App Bridge の Web サイトから必要な設定を実施することで、使用量に応じた従量課金型サービスとして転送サービスをすぐにご利用いただくことができます。

また、従量課金型サービスに加え、利用者の契約されたクラウドストレージを使用する拡張型サービスも準備しています。



※ 対応クラウドストレージは Amazon S3 です。対応クラウドストレージは順次拡張の予定です

2. 電子メール連携機能の新設

指定された電子メールアドレスに送信された電子メールを通知メッセージとして登録する機能を追加しました。この機能により、アプリケーションやネットワーク機器で発生した通知を App Bridge に統合することができます。通知を統合することにより、App Bridge が提供する抑止、振分、自動電話発信などの豊富な通知機能をご利用いただけます。

App Bridge Monitorを利用した通知統合

App Bridge Monitorは 監視モジュールと通知モジュールで構成されます
通知モジュールとはAPI、電子メールを通じて容易に連携可能です

柔軟な通知・連携機能

電子メールだけでなく電話(音声)で通知できます
エラー内容・発生時間により通知先を変えることも可能です

- 自動音声通知**
電子メールに加え電話(自動音声)で通知できます。担当者が電話に出るまで、通知者リスト順に従いコールし続けます。
- 通知の振り分け**
通知先は複数登録でき、エラー内容・発生時間によって通知先を変更できます。条件によって通知を抑止することも可能です。
- アプリ連携**
通知時に他アプリと連携できます。「パトライト点灯」「運用自動化のトリガー」「他監視システムと統合」などに活用できます。

例)

3. 小規模な機能拡張及び不具合対応

お客様がバージョンアップ機能を利用するためには、変更区分で示される作業が必要となります。

| 変更区分 | 変更機能を利用するために必要な作業 | 備考 |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| C1 | なし | センタの変更のみで利用可能です |
| W1 | Windows Agent の導入、入れ替えが必要です | |
| W2 | API コマンドの導入、入れ替えが必要です | Windows PC に導入するツールです |
| W3 | 連携サービスの導入、入れ替えが必要です | |
| L1 | Linux Agent の導入、入れ替えが必要です | |

3.1 全般【C1】【W1】【W2】【W3】

| # | 対象 | 内容 |
|---|---------|---|
| 1 | Windows | <p>正規表現評価で、処理効率化のため補正機能を追加しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先頭の <code>^.*</code> を削除する ・末尾の <code>.*\$</code> を削除する <p><code>.*</code>で終了するワイルドカードを指定したとき、ファイル拡張子を持たないファイルが該当しない場合がある問題に対応しました</p> <p>センタとの HTTPS 通信で、HTTP ヘッダ User-Agent の値を「App Bridge Windows X.X.X」に変更しました (X.X.X はバージョン番号)</p> <p>REST API を呼び出す際の TCP コネクション利用を最適化しました</p> |

3.2 Web サイト【C1】

(1) 全般

| # | 対象 | 内容 |
|---|------|--|
| 1 | メニュー | 稼働状況照会を「App Bridge Monitor」から「Administration」へ移動しました |

(2) カレンダー管理

| # | 対象 | 内容 |
|---|----|---------------------------|
| 1 | 全般 | パンくずリストのフォントが小さい問題に対応しました |

(3) 請求管理

| # | 対象 | 内容 |
|---|----|-------------------------------|
| 1 | 全般 | 2018 年 10 月以降の請求明細作成単位を変更しました |

3.3 REST API 【C1】

| # | 対象 | 内容 |
|---|----|---|
| 1 | 認証 | HTTP ヘッダ x-abm-date に 30 分以上の未来日時を指定されたとき認証エラーとするよう変更しました HTTP ヘッダ x-abm-date に過去日時が指定されたときの閾値を 10 分から 30 分に変更しました |

3.4 Windows Agent 【W1】

| # | 対象 | 内容 |
|---|--------------|---|
| 1 | サービス制御 | サービスコントロールから全サービスを停止する際、稀に Agent サービス監視障害が発生する問題に対応しました BRGSRVStop コマンド、BRGSRVStart コマンド、BRGSRVRestart コマンドでサービスの停止、起動を実施する際、稀に Agent サービス監視障害が発生する問題に対応しました |
| 2 | パフォーマンスモニタ監視 | Graph Type に Rate が指定された項目で規定外 (0~100 以外) の値を検出したときのメッセージを「エラー」から「警告」に変更しました |
| 2 | テキストログ監視 | ファイルマスクに.*で終了するワイルドカードを指定した場合、ファイル拡張子を持たないファイルが該当しない問題に対応しました |

3.5 API 監視 【C1】

| # | 対象 | 内容 |
|---|---------------|--|
| 1 | Amazon EC2 監視 | Amazon API で Service Unavailable (HTTP Status 503) が発生したとき、利用者通知が発生する問題に対応しました |

3.6 ユーザメッセージ監視 【C1】

| # | 対象 | 内容 |
|---|---------------|------------------------------------|
| 1 | CloudWatch 連携 | アラーム名でノード、通知コード、通知種別を指定できるよう拡張しました |

3.7 連携ツール

| # | 対象 | 内容 |
|---|-------------|---|
| 1 | 通知メッセージビューア | 抽出範囲に複数日付が選択可能としました 複数行を指定した一括処理を可能としました |

以上